【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第４区分
【発行日】平成27年2月26日(2015.2.26)

【公表番号】特表2011-504206(P2011-504206A)
【公表日】平成23年2月3日(2011.2.3)
【年通号数】公開・登録公報2011-005
【出願番号】特願2010-529436(P2010-529436)
【国際特許分類】
Ｃ２３Ｃ　16/505　(2006.01)
Ｈ０５Ｈ　1/46　(2006.01)
Ｃ２３Ｃ　16/455　(2006.01)
Ｂ０８Ｂ　7/00　(2006.01)
Ｈ０１Ｌ　21/304　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ２３Ｃ　16/505
Ｈ０５Ｈ　1/46　Ｃ
Ｃ２３Ｃ　16/455
Ｂ０８Ｂ　7/00
Ｈ０１Ｌ　21/304　６４５Ｃ

【誤訳訂正書】
【提出日】平成27年1月9日(2015.1.9)
【誤訳訂正１】
【訂正対象書類名】特許請求の範囲
【訂正対象項目名】全文
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
電子サイクロトロン共鳴による複数の基本プラズマソースを用いて少なくとも一つの部品の表面を処理するための方法であって、前記部品（１）は、基本ソース（２）の少なくとも一つの固定された線形行に関して少なくとも一つの回転運動にさらされる段階よりなり、前記基本ソース（２）の線形行は、前記部品の回転軸に平行に配置されており、前記基本ソース（２）は、同軸導波管及び電子サイクロトロン共鳴のために定義された磁石を含む端部器具よりなり、前記磁石の磁化軸は、前記導波管の軸と同軸にあり、かつ隣接する磁石の極性が同じであるかまたは交互であり、二つの隣接する磁石の極性が反対の場合、磁力線は、一方の磁石の極から、他方の磁石の反対の極に向かって通り、二つの隣接する磁石の極性が同じ場合、磁力線は、反発しあうようになり、二つの磁石を結ぶ磁力線はないことを特徴とする方法。
【請求項２】
電子サイクロトロン共鳴による複数の基本プラズマソースを用いて少なくとも一つの部品の表面を処理するためのデバイスであって、少なくとも一つの回転運動を受けるための手段にさらされている前記部品に面して配置された基本ソース（２）の少なくとも一つの固定された線形行を備えており、基本ソース（２）の前記線形行は、前記部品の回転軸に平行に配置されており、前記基本ソース（２）は、同軸導波管及び電子サイクロトロン共鳴のために定義された磁石を含む端部器具よりなり、前記磁石の磁化軸は、前記導波管の軸と同軸にあり、かつ隣接する磁石の極性が同じであるかまたは交互であり、二つの隣接する磁石の極性が反対の場合、磁力線は、一方の磁石の極から、他方の磁石の反対の極に向かって通り、二つの隣接する磁石の極性が同じ場合、磁力線は、反発しあうようになり

、二つの磁石を結ぶ磁力線はないことを特徴とするデバイス。
【請求項３】
前記回転運動は、単一の回転である請求項２に記載のデバイス。
【請求項４】
前記回転運動は、単一または二重の惑星運動である請求項２に記載のデバイス。
【請求項５】
前記基本ソースは、前記ソース間に等量に分割された出力を有する単一の生成器により供給されたことを特徴とする請求項２から４のいずれか一項に記載のデバイス。
【請求項６】
前記基本ソースは、前記ソースの行に沿って均一なプラズマを有するように調整された出力を有する生成器により供給されたことを特徴とする請求項２から４のいずれか一項に記載のデバイス。
【請求項７】
前記ソース間の距離Ｄｍａｘは、以下の式によって定義されることを特徴とする請求項２から６に記載のデバイス。
【数１】

$$D\max = 2R\max_0 \frac{P_0}{P}$$

ここで、$Rmax_0$は５ｃｍであり、P_0は2×10^{-3}ｍｂａｒ、及びＰは作動圧力（ｍｂａｒ）である。
【請求項８】
前記ソースから前記部品への最小距離は、前記運動の間に考慮された最も近い距離であり、４０と１６０ｍｍの間であることを特徴とする請求項２ないし６のいずれか一項に記載のデバイス。
【誤訳訂正２】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００３９
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００３９】
二つの隣接する磁石の極性が反対の場合、磁力線は、一方の磁石の極から、他方の磁石の反対の極に向かって通る。熱電子はそれから、その線で捕獲され、前記二つの磁石の間を回遊される。この電子の局在化は、二つのソースの前と間の空間で発生し、及びこの場所でより強いプラズマを引き起こす。これは、二つの磁石の間の堆積の高速度化をもたらす。ソースの極性が同じ場合、二つの磁石の磁力線は、反発しあうようになり、二つの磁石を結ぶ磁力線はない。前記ソースの前と間の空間において熱電子の局在化は起こらず、及び前記堆積はより均一となる。交互の極性を有して等価均一性を回復させるために、ソース基板の距離は、数センチメーター増加されうるが、これは、堆積の速度の損失をもたらす。これらの理由に対して、前記磁石の好ましい配置は、前記極性がどこでも同じとなることである。